

事業所の概要表

(令和7年 10月 1日現在)

事業所名	グループホーム四ッ葉			
法人名	有限会社 四ッ葉			
所在地	松山市桜ヶ丘643-2			
電話番号	089-951-4428			
FAX番号	089-951-4428			
HPアドレス	http:// yotsuba0624@shietocn.ne.jp			
開設年月日	平成 17 年 6 月 24 日			
建物構造	☐ 木造 ☒ 鉄骨 ☐ 鉄筋 ☐ 平屋 () 階建て () 階部分			
併設事業所の有無	☐ 無 ☒ 有 ()			
ユニット数	2 ユニット		利用定員数	18 人
利用者人数	17 名		(男性 1 人 女性 16 人)	
要介護度	要支援2	名	要介護1	8 名
	要介護3	4 名	要介護4	名
職員の勤続年数	1年未満	6 人	1~3年未満	9 人
	5~10年未満	1 人	10年以上	2 人
介護職の取得資格等	介護支援専門員		1 人	介護福祉士
	その他 ()			8 人
看護職員の配置	☐ 無 ☒ 有 (☒ 直接雇用 ☐ 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)			
協力医療機関名	清水医院			
看取りの体制 (開設時から)	☐ 無 ☒ 有 (看取り人数: 5 人)			

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	43,000 円			
敷金の有無	☒ 無 ☐ 有 円			
保証金の有無	☒ 無 ☐ 有 円 償却の有無 ☐ 無 ☐ 有			
食材料費	1日当たり	1,760 円	朝食:	円 昼食:
	おやつ:	円	夕食:	円
食事の提供方法	☒ 事業所で調理 ☐ 他施設等で調理 ☐ 外注(配食等) ☐ その他 ()			
その他の費用	・ 水道光熱費	16,500 円		
	・ 管理運営費	13,260 円		
	・	円		
	・	円		

家族会の有無	☒ 無 ☐ 有 (開催回数: 回) ※過去1年間			
広報紙等の有無	☐ 無 ☒ 有 (発行回数: 3 回) ※過去1年間			
過去1年間の 運営推進会議の 状況	開催回数	6 回 ※過去1年間		
	参加メンバー ※□にチェック	☒ 市町担当者	☒ 地域包括支援センター職員	☐ 評価機関関係者
		☒ 民生委員	☐ 自治会・町内会関係者	☐ 近隣の住民
		☒ 利用者	☐ 法人外他事業所職員	☒ 家族等
	☐ その他 ()			

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和7年11月28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	15	(依頼数)	17
地域アンケート	(回答数)	1		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870105040
事業所名	グループホーム四ッ葉
(ユニット名)	1階
記入者(主任)	
氏 名	橋本 愛
自己評価作成日	令和7年10月1日

【事業所理念】※事業所記入 ◆健康 すべての人々の健康で心豊かな生活文化の向上を目指します。 ◆愛情 すべての人々の心豊かな愛情で、より良いサービスの提供を目指します。 ◆幸福 すべての人々の幸福を思い、常に相手の立場に立った心と行動を目指します。 ◆希望 社会に貢献し、社会の信頼を得て発展する、希望ある企業を目指します。	【今回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ⑬2人体制の日もあり、日常的な外出は難しいが事前に個別支援として勤務表制作時に盛り込んでお墓参りや自宅の側へのドライブなど個別支援で外出もしている。職員同士で協力して散歩や買い物などにもお連れできるように取り組んでいる。他の同列施設から運転手をお願いし、合同でせせらぎ亭に外出したり、家族様と現地集合でカフェに行くことやお花見などの行事も行い、看取りの利用者様に馴染みある三津浜図書館に本を借りに行ったりと外出をすることも出来た。 ⑭誕生日には事前に伺い、特別メニューをしている。基本は上下のユニットを作る事もあり、ヨシケイとなってしまうのが数ヶ月に1度は料理教室を行ったり、個別に対応して寒夏を作ったり、好みをパンを購入したりと固定のメニュー以外融通を季節的行事としてお花見や運動会にお弁当を作ったり、土用の丑の日やちらし寿司等もやっている。月に1度15日はフリーメニューとして各利用者様に順番に食べたいものを伺い献立を作っている。個々での好き嫌いに合わせて、家族様にも協力を頂き代替の品を食べて頂いている。 ⑮家族様に事前にLINEで案内を送り、参加の有無を連絡頂くようにしている。午前午後の行事時間を伝えたり土日に曜日をすることで行事参加に繋がっている。家族様も協力をして下さり、料理教室やペーパークラフトも実施する事が出来た。参加が難しい場合は後で日々の様子や行事などの写真を送らせて頂いている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 この一年間は、4名の利用者の看取り支援した事例がある。看取りの期間に入った利用者の希望を叶える取り組みとして、10月ではあったが、そうめん流しを行った。また、図書館や喫茶店に出掛けることを支援した。家族から「この事業所でよかった」との感想があったようだ。 11月には、事業所開設20周年記念のイベントとして、ベランダでのBBQを行い、利用者、家族、職員合わせて30人程度で楽しんだ。家族は7～8組程度の参加があった。看取りを支援した利用者の家族から「楽しいことに使ってほしい」と心付けがあり、家族も誘いカフェに出かけた。参加した人からは、「利用者と一緒にゆっくりと過ごせたり、他の家族とも交流できてよかった。」との感想があったようだ。
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思い暮らし希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	共同生活だからと無理強いせず利用者様の希望に合わせて可能な事は対応し散歩や買い物など、予定した時間外でも可能な時は行っている。又、難しい場合は家族様にも聞いて対応している	○		○	入居前、家族に、「入居される前に教えて頂きたい事」シート(食事やおやつ、趣味や好きなもの、生活、入浴、服装、髪等)を記入してもらっている。入居後に知った情報は、職員が追記し、把握に取り組んでいる。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	職員一人の意見ではなく、家族様に聞いた日々様子を観察しながらカンファレンスを行った際にお試しを行ってから実施しその結果を申し送り次に生かす様にしている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に家族様に話された事などをお聞きしたりLINEで、本人様が希望されていることなどを伺うようにしている。日々の生活で話されたて要望があれば周知出来るように申し送りしている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人様の希望された事をケアの申し送り機能を活用して職員全員が周知出来るようにしている。申し送りシートに書いて共有する事もある。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	出来ていた事を当たり前せず、状態に合わせて対応を行い本人様がほっと落ち着いた言葉も気に留めるようにしている。職員一人で判断せず、話し合い思い込みで実施しないようにしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前にアセスメントを行い、入居後も面会時などに家族様より伺うようにしている。本人様からも入居後は特に情報が収集出来るにして1ヶ月以内に個別援助マニュアルを作成している			◎	入居時に、家族、利用者、以前の担当ケアマネジャー等から、生活歴や趣味、これまでのサービス利用の経過などの情報を聞き取り、アセスメントシートに記入している。 家族に「入居される前に教えて頂きたい事」シートを記入してもらって、本人のこれまでの暮らし方についての情報を具体的に得ている。家族によっては、手紙で以前の暮らしの様子をまとめてくれる。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	いつもと状態が違う時は細かく記録に残し、周知出来るようにしている。季節の変わり目など、事前に変動が見られることが分かっている場合は職員同士で周知して気を配っている				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	利用者様の生活リズムを把握し、トイレ等いつもより少ない時は申し送りに水分の摂取を促す様に伝達したりと変化に気が付けるようにしている。何時もと違う時は申し送りに実施している				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ケアプランを更新時、本人様の要望以外に日頃からの会話から希望なども盛り込み可能な事は行うようにしている。買い物や墓参り、故郷や自宅への帰郷などの外出支援もしている。			○	事前に、家族や利用者から意向や要望を聞いておき、担当職員が、意見交換したい内容を挙げて、タブレット端末内で意見交換(サービス担当者会議)を行っている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	実施後の様子を見て継続し、購入物など、本人様と可能な時は散歩時に一緒に行くなどしている。馴染みや希望の箇所として自宅支援や墓参り、図書館参りなど個別支援も出来るように取り組んでいる。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	会話の中の墓参りに行きたいや買い物散歩、要望された事をケアプランに盛り込み大きな事柄は個別支援としても数ヶ月に1度は行けるように予定を立てて職員を配置するようにしている。お酒の摂取などは主治医にも相談している				サービス担当者会議の内容(検討した項目、検討内容、結論)と「職員のコミュニケーションノート」の内容をもとに、担当職員がケアマネジャーと検討し、介護計画を作成している。 家族から「事業所での役割が必要ではないか」と意見があり、花が好きな利用者ということもあって、居室に観葉植物を置き、毎日水やりを行えるよう支援している事例がある。 利用者の身体状態によっては、主治医や訪問看護師のアドバイスを計画に採り入れている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	LINEを通して家族様と意見交換を行っている。お茶は飲めない糖尿病で体重増加気味の方に医師と相談して可能な飲み物を提供できるように検討したり、排便が出辛い方に家族様に乳製品を購入して頂いたりしている	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その方以前の様子を個別援助マニュアルにも反映させ可能な事は実施出来るように医師とも相談してリフト浴や馴染みある図書館への外出も出来た。職員だけでは難しい時は家族様にも相談して協力して頂いている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	肉を好まない場合家族様にタンパク質となる豆腐や納豆等を持って来て頂いたり、水分が少ない方は好みの飲み物をお願いしている。地域とは関わりが浅いが、家族様には外出支援や行事にも参加して頂いている				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	タブレットに記録する時にすぐにケアプランが分かるように縮小したケアプランのコピーをファイルに入れて更新時には担当が早期に入れ替えをして確認出来るようにしている。毎日、介護計画に沿った事が実施出来ているか記録している			○	介護計画(用紙)を確認しながら、タブレット端末に介護記録を入力している。 タブレット端末の介護記録に、介護計画に振った記号番号と支援内容や利用者の様子や言葉を記入している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランの内容は#として記録し、1日に一項目以上は入れるように必ず職員が確認を行っている。個人別の記録が出来る様に掛けられている記録の仕方にもバツキがあり、具体的とは言えず後日詳細が分かる事もある			○	

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	基本は半年に1度の間隔でケアプランを立て、居宅担当職員を中心にケアマネと話し合い職員全体の意見を盛り込んでカンファレンスを実施するようにして本人様家族様の意見を反映させるようにしている			◎	ケアマネジャーが「更新一覧表」で期間を管理しており、6か月毎に見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	担当職員は月に1度内容をモニタリングして出てくる事と出来ていない事を把握し、評価をしている。ケアプランに無い場合も利用者様がしたい事があれば次回に反映できるように取り組んでいる			◎	月1回、担当職員がタブレット端末の「モニタリング総括表」で実施状況（文章）、達成度○△×、評価（文章）の項目に沿ってまとめている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入退院後は状態の変化に合わせて家族様にも相談を行いその状態にあったケアプランを作り直す様になっている。状態に大きく変動がみられた場合もカンファレンス後に相談し必要な場合はケアマネと相談して新たにプランを変更する事もある			◎	この1年間では、退院時に身体状態に変化があった利用者や、精神状態が不安定になった利用者の介護計画を見直した事例がある。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	パソコン上でカンファレンスを月に1度は行い、職員の意見を必ず書き込む様になっている。主任者会議や食事会議等各自の役割でも会議を実施し、数か月月に1度や緊急時は全体会議として実際に話し合いも実施している			◎	2か月に1回、パート職員も参加して、2ユニット合同で集まる会議（ミーティング）を行っている。ケア内容の統一が必要な場合は、ユニットで職員が集まりミーティングを行っている。虐待に関する事案等の緊急案件があれば、両ユニットの職員が集まり話し合う場を持っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちや率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している	△	司会は見意見を仰ぎ、全員が何かしらの意見を出す事になっている。会議は全員の顔をみて話せるように行っている。ユニット会議をもっと行いたいとの意見もある				毎月、タブレット端末内でミーティングを行っている。職員それぞれに話し合いたい内容を出して意見交換をしており、月末にまとめている。
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	会議を実施する日は事前に通達を行い、内容について直接会議では言いづらい職員は事前に名前を出さず意見を聞いてから進行するようにしている。会議は参加出来なかった職員も議事録として全員が閲覧し、内容を共有し確認するようにしている。			◎	2か月に1回のミーティングは、事前に夜勤入り、夜勤明け以外の全員が参加できる日を選んで行っており、目標の反省や勉強会などを行っている。 職員全員が、議事録（四ツ葉ミーティング報告書）を確認してサインするしくみをつくっている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	○	重要な事は口頭でも行い、FTケアの申し送り機能で何時確認したか分かるようにしている。重要な事やいつもと違った事、家族様とのやり取りや医療の事などは必ず送るようにしている。内容が分かり辛い場合は確認も行っている	○		○	タブレット端末の申し送り（利用者のことや家族とのやりとり）とスタッフ連絡（業務の事）で情報共有している。すべての職員が内容を確認するしくみがある。 また、日々の業務で不安なことや確認したいことなどを、自由に記録できる「職員のコミュニケーションノート」で情報共有している。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日中、その時の気分で散歩や買い物希望された時、職員同士で可能かを話し見守りが出来る場合は対応している。2人体制の日は難しい部分もあり本人様にも説明し後日に声掛けをしている				過ごし方や余暇活動に何をするか、散歩コース等、その都度利用者が選べるような場面をつくっている。おやつ時の飲み物を数種類用意して、選べるようにしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。（選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等）	○	10時の水分補給や週に1回の訪問パン等メニューから直接選んで頂いている。体操やレクリエーションへの参加も無理強いはせず、本人様の意思に任せている。可能な方は入浴の衣類なども本人様に選んで頂いている			○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。（起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等）	○	適時の声かけはしているが絶対ではなく、起床が難しい場合は間で声掛けを行いながら本人様がしっかりと覚醒にしたり、入浴が午前休まれている場合は午後に行うようになっている。トイレなども無理強いはせず、立たれたタイミングに行っている				毎週木曜日に移動パントリーが来ており、日曜日に欲しいものを選んでおくこと、木曜日に届けてくれる。パンは、おやつにしている。
		d	利用者の活き活きた言動や表情（喜び・楽しみ・うるおい等）を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている	○	1ヶ月に1回以上は行事を実施し、非日常的な雰囲気を作らせて楽しんで頂いている。家族様にも事前前に伝えて加えて頂いている。利用者の好きなことを話題にして、毎日体操や歌などのレクを実施している			○	誕生会、誕生日の日当日行っており、事業所からもプレゼントを用意している。調査訪問日は、入院に伴い、延期になっていた利用者の誕生会を行っていた。お祝いの歌や拍手が聞こえてきた。月に1回程度、「お料理教室」と称して、利用者順番に食べたい物を聞いて、つくって食べるような機会をつくっている。利用者は、ハンバーガー、ピザ、焼きそば等を希望するようだ。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	利用者様の反応の様子で支援をしたり、職員が手振れるが言葉が出づらい場合は本人様が何時も希望している事を伝えてどれか該当するかを聞く様になっている。失語症の利用者様にも言われることを照らし合わせて答えるようにしている				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。（人前であらかじめケアや誘導の声をかけたりしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等）	○	利用者様の出来る事を職員の手を奪わないように認知症について毎月学ぶ機会を作っている。尊厳についてeラーニングで各自が学ぶようにしている。利用者様が不快にならないよう、気を付けているが聴覚の力に対する本人様の近くで伝えているが周囲にも聞こえている事があるので注意したい。	○	◎	○	職員は、eラーニングで勉強をしており、「コンプライアンス・尊厳・プライバシー」「コミュニケーション接客」等のテーマの折に、人権や尊厳について学んでいる。勉強後に報告書を作成して提出するしくみをつくっている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	入浴時の更衣時は体を隠すようにタオルを使用している。入浴も男性職員の介助が苦手な場合は女性が担当の日に変更している。排泄時はしっかりと戸を閉めて外で見守りを行うようにしている				事業所では「3つの約束」として、1.丁寧話を話す 2.挨拶をする 3.清潔感を保つ、に取組んでいる。
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入室する際はノックと声掛けを行うようにしている。本人様がリビングに居られる時は何の用で何かを伝えるようにしている。居室の物を移動させる時なども声掛けをして行うようにしている			○	管理者は、「利用者は、尊敬する立場の人である。言いたいことが言えて、望みが叶うような支援に取り組んでほしい」と日々のケアの中で職員に話している。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	利用者様個人の情報や仕事上で知り得たことは外部に伝えてはいけいない事を新人職員にも伝え施設外では話さないようにしている。写真などの漏洩に対するアナウンスも実施している				管理者は、利用者にひと声かけ、許可を得てから入室していた。
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者様から知らない世代に昔の事や童謡などを教えて頂いたり、洗濯物干しや量など日常的な仕事を役割をもってして頂きその都度「ありがとうございます」と感謝を伝えていく。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	バズル合わせ等も利用者様同士で教え合って完成させている。感謝を伝える事が利用者様の喜びにも繋がる事を理解しており、役割や生きがいにも繋がる活動がなければ利用者様同士の付き合いに口を出さないようにしている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。（仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等）	○	仲の良い方を行事の時に近くに配置したり、日頃関わりあまらない方もレクリエーションなどで関われるようにしている。利用者様同士で名前を呼び合い歌なども歌詞カードが足りない時は一緒に見たり声掛けをして捲ったりして下さっている。場合によっては職員を挟んで会話を頂く			○	居間の3つのテーブルは離して設置しており、利用者の状態や関係性などを踏まえて座席を決めている。仲の良い利用者同士で散歩やドライブに出かける機会をつくっている。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者様によっては認知症の症状を馬鹿にしている発言が見られる事もあり、その場合は違う事などを伝えてトラブルになる前に間に入りたり家族様にも相談して症状によっては医療に相談を行っている				トラブルになりそうな時には、職員が間に入って話を聞いたり、距離を持ったりできるよう支援している。
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	アセスメントシートを元に本人様や家族様にも伺い、住んでいた場所や学校馴染みの場所を会話から情報を個別援助マニュアルに担当職員が落とし込むようにしている。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族様によっては家族様以外の方と関わりを持つことを断られている方も居られる。入居前に一緒に住まわれていた内縁の夫は年に数回来られ、職員からも誕生日などに勤めて電話でのやり取りを実施している				
13	日常的な外出支援	a	利用者（および意思表示が困難な場合はご家族）の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	○	数か月に1度は本人様と家族様の要望に合わせて自宅への外出や、実家近くのお墓参りなどを職員が支援に行けるようにしている。毎日とは行かないが、散歩や本人様のおやつを買いに散歩で出掛けたりしている。マクドナルドへバーガーも食べに行かれ喜ばれていた		○	回答なし	敷地内を散歩したり、ベランダで外気浴をしたりすることを支援している。夏場の散歩は、朝食後に行う等、時間帯を工夫して支援している。 月に1〜2回ドライブ（外食含む）に出かける機会をつくっている。この一年間では、花見、海を見に行く、イチゴやブドウ狩り、喫茶店、ファストフード店等に出かけることを支援した。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	自宅に帰りたいと希望が見られる方は、家族様に協力をして頂き帰られて今まで着ていた衣類を持って帰って来られたり疎開前の住所に行かれたり、中学生の体験学習で一緒にせせらぎ亭に出かけた				また、日々の中で、近くのスーパーやコンビニまでお茶菓子を買いに行ったり、洋服の買い物等を支援している。ベランダでそうめん流しやBBQを行う時には、重度の利用者も参加して、雰囲気を楽しめるよう支援している。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
14	心身機能の維持、向上を図る 取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	eラーニングで学習している。季節の変わり目など、特に傷むたいと症状が出る方が居られ状態の観察や申し送りを行い、職員全体で緩和出来るように声掛けを行っている。特定の食事をすると感情が変化する事も把握しており声かけに気を付けている				利用者の個々の力量に合わせて洗濯物干し・たたみ等を行う場面をつつている。 昼食中、食事がすすまない利用者に他利用者が「食べんといかんよ」「しっかりお食べ」と声をかけながらおかずを口まで運んでいる様子がみられた。職員は、そっと見守り、あとで世話をしてくれた利用者にお礼を伝えていた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	排便が出難い方は家族様に協力を頂き、乳酸飲料を個別で飲んでも頂いたりしている。口腔体操や歌を通しての嚥下改善やラジオ体操など日頃から行う習慣を作っており、生活リズムを毎日利用者様と行うようにしている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	洗濯量は利用者様にして頂き、後で職員が別の場所で見守り確認したり畳み直し自尊心を傷付けないようにしている。出来るだけ職員が介助せず声かけのみで本人様にして頂くように動いている	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの 支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	歌が好きな利用者様が多く、歌詞本を作成し時間を作っている。バスルなどを好まれる利用者様は施設のものを出し出している。夏はラジオ体操カードを作り、参加して頂くしシールを貼って後日BINGOのゲーム大会で景品と交換している				室内での運動会の折には、利用者代表に選手宣誓をお願いした。食後に、「ごちそうさまでした」とあいさつの掛け声をかけてくれる役割の利用者がいる。新聞を読む習慣がある利用者には、事業所で取っている新聞を、職員が毎日手渡している。 お彼岸やお盆には、利用者と職員でおはぎやだし餅をつくっている。行事(運動会、ひな祭り、母の日、七夕、そめいん流し、敬老会、クリスマス会、外食、ピクニック等)を行い、利用者の楽しみをつつている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	洗濯量で衣類が難しい方にはタオルをお願いしたり、行事としてお茶会や料理作り等一緒に作業を希望し出来るようにして。苦痛に感じないように気を付けている。施設の買い物車椅子に乗って頂き籠を持って頂いたり、商品を入れて頂いたりしている	○	○	◎	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	個別で乳液やリップを使用されておられる方が居られる。衣類にも執着が見られる方や、自宅から以前使用していたネックレスを家族様に持って来て頂いている方も居る。衣類もインナーやこの季節はこの服とこだわりがある方も居る				利用者は季節に応じた清潔な服装で過ごしていた。月に1回は、上靴を洗うようにしている。 長年同じ訪問理美容師が来ており、利用者と馴染みになっており、本人の希望に沿ってカット等をしてきている。家族が馴染みの美容室に連れて行くケースもある。 衣替えは、主に担当職員が行っている。衣類の新調が必要な場合は、家族が用意したり、職員が買い物に付き添ったりしている。 男性利用者には、入浴時に「字カミシ」を使って自分で整髪をしをしてもいい。職員が仕上げをしている。帽子をかぶって過ごす習慣のある利用者には、クリスマスに、担当職員が選んだ帽子をプレゼントした。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	出張美容師に来て頂いているが、本人様や家族様から髪を短くすると男性に見られてしまうとの長さを希望するなど好みに合わせている。小指のみ爪を伸ばす方も居る間で危険が無いようにある程度で声掛けで切る事を勧めている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	入浴時、2択にして本人様に服を選んで頂いている。気候に合わせて、本人様に勧めている。夏場など、寒いと言われた時は1枚羽織れるようにし調整している。本人様に好み伺いを考慮して行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	行事の時に季節合わせた服装をして頂いている。写真に同じ服装も多いのコーディネートをして行事も大切だと思えます。拘りのある利用者様は衣替えも意見を聞きながら一緒にやっている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、口まわりの周囲等)	○	衣類に食べこぼしがある場合などは服薬時に声掛けを行ったり、ティッシュを渡して拭てもらっている。エプロンは使用せず、タオルを使用するようしている。履物は入浴時に綺麗にして月末に必ず洗うようにしている、	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族様が希望される美容室がない場合は了承を得て出張美容のブームとヘアを希望している。何時も同じ方で馴染みの関係になっている。看取りの時も希望時は2人体制で実施して下さった。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	出張美容師が重度になっても切ってもらっている。入浴ができない時は清拭時にドライシャンプーを実施したりタオル状態になっても好みの色合いの服を選んだり可能な時は職員2名で行ったりしている			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は利用者様が一番楽しみにされている事でメニューを作る所から考える事や手を動かすこと等も含め、指の動きや咀嚼嚥下なども生命維持に連がることも理解している。				日常の食事は、配食業者から決まった献立で食材が届き、職員が調理している。利用者が食事作り一連のプロセスにかかわる機会はほぼない。寿司の献立の際には、少し飯を仰ぐ役をお願いしている。 業者の献立で食材が届くため、利用者の希望や昔なつかしいものを採り入れることは難しい。 嫌いなものがあれば、入居時に把握しておき、事業所で代替品を用意している。 花見には、お弁当、いちご狩りにはおにぎり、ブドウ狩りにはサンドイッチ等をつつて出かけた。 茶碗や湯飲み、箸等は、それぞれに、入居時に持参してもらっている。また、壊れた時には、家族に用意してもらったり、事業所で個人用のものを用意したりしている。 利用者の食事中、職員は、介助などして、その後で持参した弁当を食べている。 外食の折には、職員も一緒に食べている。 オープンキッチンで調理の様子が見え、音やにおいがする。食前に口腔体操を行っている。 小さなホワイトボードに、職員が一日の献立を書いており、食前に口頭でも伝えている。 月に1度の「フリーメニューの日」を設けており、利用者の希望を順番に聞いて職員が手づくりしている。当日は「〇〇さんの希望メニューです」と伝えている。食材の買い物に利用者と一緒に行動がある。 食事に定期的な話し合いのような機会は持っていないが、食事形態や調理方法などについては、必要時に、口頭で話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事は基本シキヤクを使用しており、メニューは職員が揃えないようになっている。月に1度のフリーメニューは利用者様に食べたい物を伺って献立を作っている。食器洗いや拭く米研ぎなど、可能な方も居るもので毎日ではないがして頂いている			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	行事として料理教室を数か月に1回は行っている。他にも、おはぎやらし寿司を作ったりと一緒に頂いて頂く事はありますが日常的には行っていない。一緒に頂いて頂く事は伝えたりとして喜びに繋がるようにしている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	個々の好みは把握しており、個別援助マニュアルにも記載して職員全員が周知しており食べられない物は在庫で代替えを行ったり肉が苦手な方は家族様にも協力して頂き納豆や豆腐などを個別に購入して頂き代替えとされている				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	シキヤクとは別に行事など考慮した日を作っている。土用の丑の日は鰻を提供したり、夏場はスイカを提供したりと現物を見せたりして話題にしている。おやつでは少しお茶やおはぎなども作っている。作る事はされるが、食べる事はしない方も居られる			△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりと器の工夫等)	○	食欲のない方にミキサーしたりと個々に合わせた対応をしている。歯茎を使用し食べられている方も居られ、その方に合わせて刻みの大きさを変更させて頂いている。細かい刻みにするとどうしても盛り付けは工夫出来ない部分も多い。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	家族様に本人様が使用されていた物を持って来て頂き、破損すると本人様に合わせて軽い物や小ぶりのお茶碗やプラスチック製など個々に合わせた物している			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事と一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	職員と一緒に食べる事は無いが、必ず1人は近くで見守りを実施し必要場合は口元を拭かせて頂いたり、スプーンを使用していた事もあった。意欲が見られない場合は声掛けや介助をしている。			×	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	メニューを毎日伝え、季節になると旬の食べ物や提供前に現物を見せて写真撮影をしりしている。調理中に「包丁の音は少ないが、包丁などは感じて頂いている。看取りになると居るの対応が多くなるが、提供時に何かを伝えて介助をしている	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	排泄量が少ない場合などは水分量をチェックして頂いているように支援している。食事はシキヤクを使用しており、1日の栄養バランスやカロリーは計算されている。糖原を持たれている方には個人持参の甘味は医師と相談して量を制限したりしている				
		k	食事が少ない場合、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分量が少ない利用者様には好みの飲み物を家族様に相談して購入して頂いたり、寒天を作った本人様が食べられそう時に声掛けで提供をするようにしている。肉類を好まない方には家族様に協力して頂くたんぱく質を摂れるように代替えを提供している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りが無いように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	シキヤクの食材を使用しており、栄養についてはアドバイスを受けていないが栄養の増加減量を施設全体の看護観が確認しており、医師にも相談するようになっている。月に1日希望メニューの日は食材が揃らないように1日のバランスに気を付けている			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食事前には職員はしっかりと手洗いをし、まな板や包丁は熱湯消毒を行っている。夜間もスポンジも共にハイターに付けている。冷蔵庫の掃除も週に1回行い、在庫から先に使用して菌が繁殖しないように心掛けている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科に指導して頂き、歯周病についてなどを学ぶ機会を頂いていた。現在はeラーニングを通して研修し、口腔内を清潔に保つことは認知症にも健康にも良い事を理解し、個々に合わせた方法で毎食実施している				口腔ケア時に、職員が目視することにとどまっている。異常や本人からの訴えがあれば家族に連絡し、歯科医につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	義歯の有無について把握をしている。介助が必要な方には口腔内の確認をさせて頂くようになっている。義歯も週1回は洗浄を行いしっかりと確認している。口腔内や義歯に不具合がある場合は歯科往診に繋げている			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	eラーニングを通して研修し、歯科往診時に義歯の外し方や磨き方などの指導を受け実施している。職員自身も歯科に定期的に通い、歯ブラシの当て方などを指導を受けており活かせるようにしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯は研磨剤が入っている歯磨き粉は使用せず、基本就寝前に預かり仕上げ磨きをして、保管する時はケースに水を入れて行っている。1週間に1度は義歯洗浄も実施して破損などの確認をしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後、声掛けを実施している。個々に合わせた対応で本人様に歯磨き粉を付けて頂き、磨くように勧めたりトイレ時に口を濯ぐだけと伝えてそのまゝ歯ブラシを通して口腔ケアをして頂くようにしている。無理強いしせず残渣物が無いように気を付けている			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	利用者様の状態に合わせて、夜間のみパットを使用したりとして出来るだけトイレで排泄が出来るように声掛けを行っている。失敗をした時も本人様の自尊心を気付けないように声掛けしている。				日々の中で職員の気づきがあれば、その都度話し合っている。 日中は、トイレでの排泄を支援している。紙パンツだと破ってしまう利用者には、布パンツとパッドに変更し2時間おきに誘導して支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘を起こす事でストレスや精神的不安、苛立や食欲の低下等やイレに頻回に行くなど悪影響が出る事を理解しており長期にならないように水分を促したり医師に相談して定期的に出せるように支援している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を付けており排便のタイミングも個々の利用者様によって朝・昼・夕と違うことを周知している。又、下剤を服用の方などは特に職員で申し送り失敗り無いように配慮している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	定期的にトイレの声かけを行っている。排泄チェック表で確認しトイレに長期行かれていない場合は本人様に伺うようになっている。パットの大きさも、個々に合わせて夜間のみの方の大きさも居られる。退院後など、状態でもムから徐々に変更している	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排便が少ない方には家族様に協力を頂き毎日乳酸飲料を飲まれたり、ヨーグルトを召し上がられている方も居られる。水分が良くない方には好みの飲み物を飲めるように家族様に協力をさせて頂いている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	下剤を服用時は申し送り職員全員が周知してトイレに早めに声掛けを行ったり、落ち着かない時はトイレに声掛けを行うようにしている。声掛けが必要な方は定期的に声掛け、チェック表を通して排泄の有無を確認している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	パットを使用する時は事前に家族様に状態を伝えてから開始をするようにしている。パットの使用量が増えた時も同じで日中に何回程度使用しているなどを報告してお試してから使用開始に至る場合もある				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	パットも施設物では大きいと感じる場合はナプキンタイプのパットを家族様と相談して使用したり、夜間トイレの声掛けに断られるが多量の方は大き目のパットにしたりと相談して行っている。布パンツのみ使用の方も居られる				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	家族様に協力を頂き乳酸飲料を飲んで頂いたり、毎日ラジオ体操を行っている。水分も少ない方にはチェック表を作り、寒天を作ったり散歩の後入浴後リハビリに居られる時など細目に飲んで頂くように声掛けを行っているが下剤服用の方も多い				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	基本は午前中と決まっているが、無理強いしせずダメな時は別の日を声掛けするようにしている。長期にわたらない場合は午後から行ったり、希望日に可能なら入って頂いている。入り方も利用者様の好みに合わせた方法にしている	◎		○	週に2回、午前中の入浴を支援している。 今夏、1階ユニットには新たに機械浴を設置しており、1階ユニットの全利用者が湯船で温まることができるよう支援している。 長さや温度は、その都度、希望に添えるように支援している。 季節によっては、ゆず湯を楽しんでいる。
		b	一人ひとりが、つろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	入浴時は出来るだけ浴槽に浸かった場合は可能な方は外で見守りを行い、必要以上の支援は行わず体調を見ながら急がせないように本人様のペースで入れるようにしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	足元や背中など、本人様が届かない部分は補助させて頂くが胸元など見守りの届く範囲は洗って頂いている。櫛を使用して頭部を洗われる方も居られる。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	浴室や脱衣所が温かい事を伝えたり、腰が痛む方には湯船に浸かった方が寝るの効きが悪い事を伝えたりとしている。入浴の順番に拘りがある方は事前に声掛けをしている。老いた自身の体が見たくない方には腰が見えない位置で洗身をして頂いている				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルを測定し、異常がないかを確認してから声掛けを行っている。下剤を服用時は排便の有無を確認して出来るだけ、最後に入って頂くようにしている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	FTケアで確認している。電気を点けたままでも無いと眠り辛い方やテレビを付けたまま休まれる方、21時頃まで起きてから休まれる方など個々の状態を把握している。				薬剤を使用する利用者については、睡眠の様子や日中の様子を主治医に報告して、相談しながら支援している。 大事にしている人形がある利用者については、就寝時は、人形と一緒に寝ることができるよう支援している。 日中は、体操や体を動かすレクリエーションゲームの時間をつくって活動的に過ごし、夜間は静かに過ごすことで安眠につながっているようだ。 眠れない時は、お茶などを用意し、ゆっくり過ごしてもらっている。 訪問調査日は天気がよく、利用者の布団を干していた。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜間、ベッド対応で起きられる方には定期的にパットの確認をさせて頂いている。日中、ベッドタイムが長くなり過ぎないように気を付けている。体操や歌の時間などをつくりリズムを作っている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	定期的に医師に相談をさせて頂いており、日中に身体への負担が少ないようにベッドタイムを取ったり人がけソファで過ごして頂く等している。毎日、体操やレクリエーションの時間を作っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	体操後、昼食までの間や昼食後はベッドタイムをとって頂いたり高齢の利用者様に合わせた対応を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	遠方の娘様に定期的に電話をされたり、手紙を受け取ったりとされている方も居る。年に1度は手作りの年賀状を投函したりもしている。知人の誕生日に電話を勧めることもある				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	年賀状作りはハンコで行い、短いメッセージを書いたり宛名を書いて頂いている。出来ないと言われる方には出来る部分をして頂いている。贈り物が届いた時は連絡をするか伺うようにしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	施設の電話や携帯電話にかけて頂き、基本は利用者様だけでお話をして後で預かるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙や荷物が届いたときは本人様にお見せして声かけを行い、お礼の電話を掛けたりとしてやり取りができるようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人様が望まれた時、繋いでも良いが事前に伺ったりしてやり取りをして頂いている。看取り時遠方に住まわれている娘様やお孫様と定期的に電話でやりとりをされている方も居られた				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	手元にお金がないと不安な方も居られ、少額紛失しても良い事を家族様に了承を得て持っておられる方も居る。買い物気分転換に繋がる事も理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	散歩の時、お預りしているお小遣いから本人様が食べたいお菓子やカップ麺佃煮などを購入される方も居られる。個別支援で普購入していたガンスを伊予市で購入された方も居る				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	基本お小遣いも施設で預かっていながら買物の時、一緒に同行して本人様のお小遣いから購入して頂く事もある。個別支援にドライブや買い物を入れて頂き、家族様にも使用方法を伝え後で領収書をお渡している。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	お小遣いの領収書はまとめて渡す様にしており、大きなお金を使う場合などは事前に了承を得ている。本人様が望まれたハンコなどを購入時も最初に向うようにしている。使用用途を聞かれた時は答えるようにしている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	お小遣いを出納帳に記入し、家族様に領収書やレシートを渡す様にしている。家族様が望まれた場合は一覧を閲覧出来る様にしている。お金を預かった場合は一緒に確認するようにしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	おやつで毎日パンを希望される方に家族様に了承を得てパンを提供したり、自宅に帰宅やお墓参りをしたいと望まれる利用者様に買い物希望される方で家族様の対応が難しい場合も個別支援として職員がお連れしたりしている。	◎		○	墓参りや買い物に職員が付き添い、支援している事例がある。看取り支援中は、家族の面会や居室での宿泊は自由で、家族用のソファを準備している。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関は何時でも入れるように扉を開けて、季節の装飾をして明るいつわらぎを作っている。駐車場にも花の鉢植えを置いたりベンチなども置き、座って話が出来るようにしている。	◎	◎	◎	門扉は開放しており、駐車場が広く、玄関まではスロープを設置している。シンボルツリーの常緑樹が大きく育っている。玄関周りには、ベンチを置き、花を植えたプランターを配置している。初夏には、敷地内にこいのぼりを泳がせている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	刃物などは手の届かない位置にして、掲示物も普段はある程度で抑えている。リビングには季節の花を飾ったり、新聞などを置いている。誰でも触れるところにアルバムや歌の本、皆様が遊べるトランプなどを置いている。	○		◎	共用空間の各所にクリスマスの小物を飾ったり掲示したりして雰囲気をつくっていた。居間のコルクボードには、利用者と職員でつくった季節の壁画を飾っていた。
		b	利用者がとして不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行っている。	◎	換気を定期的に行っている。日が入るように全面が窓だが、西日が入り易いのでその時に合わせてカーテンをしている。トイレ掃除は毎日、掃除で定期的に行っている。			◎	空気清浄機・加湿器を設置している。掃除が行き届き、気になるような臭いは感じなかった。居間は、大きなガラス窓から光が入り明るい空間になっている。昼食中はテレビを消して、BGM（ジブリのオルゴール）を流していた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節のタペストリーや施設で咲いた花を飾る事や造花を飾る事もある。母の日に届いた花に水やりをして頂いている。季節の行事として柚子湯やセタの笹飾りなども一緒にやっている。			◎	文字盤がはっきりした時計を掛けていた。また、時計の下には大きなカレンダーを掛けており、自地に黒い太文字の数字には、過ぎた日に×印を付けて、今日の日付が分かるようにしていた。また、事業所の行事を記入していた。居間から段差なしでベランダに出られるようになっており、ベンチを置いている。布団や洗濯物、洗った靴を干していた。また、利用者と職員でつくった吊るし柿もあった。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	各テーブルで過ごす以外にテレビの側にソファや、窓際に椅子を用意して日向ぼっこをしたり出来るようにしている。居室を希望しても寂しい方は本人様の要望で居室の戸を開けて人の気配を感じられるようにしている				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	昔本人様が作られた作品や、姉妹の写真が飾られている方も居る。施設で作ったペーパークラフトや自宅から持ってきた家具やテレビを置かれている方も居る。	◎		○	自宅からテレビや椅子を持ち込んでおり、家具等も含めて、家族や本人と相談して配置している。水筒にお茶を入れていつでも飲めるようにしておく習慣のある人には、職員が用意している。換気を行っているようだが、居室によっては、臭いがこもっているようなところがあった。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかえること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	各居室に表れを付けさせて頂き、トイレにもマークを付けさせて頂いている。各居室はリモコンで電気を操作して頂いており、分かり易い位置に置いて操作が出来辛い方のみ職員が行っている。			○	居室の表れは立体的に表示していた。洗面所の鏡の上部に、トイレの表示と「ー」を付けていた。トイレには、カラーピクトグラムで表示していた。調査訪問日の昼食後、廊下の手すりを伝って居室まで戻っている利用者もいた。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	◎	リビングの誰でも触れる所に歌の歌詞本やアルバム、料理の本や皆様で遊ぶおもちゃやバズルを置いており好きな使用出来るようにしている。朝刊の新聞はテーブルに置き、いつでも読めるようにしている。				居室の引き出しタイプの衣装ケースには、中身が分かるよう名前シールを貼っていた。訪問マッサージを利用する利用者の居室の壁には、マッサージの予定表を貼っていた。
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害（鍵を掛けられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）を理解し、日中は玄関に鍵を掛けたとしても済むように工夫している。（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）	◎	拘束は虐待に繋がる事や、利用者様が不安になる事を理解しており玄関は常に開放してユニット入り口には扉の開閉時に鈴が鳴るようになっている。人の出入りがある場合は確認を行うようにしている。ベランダ側の窓を開けていることもあり、所在確認は常に行うようにしている。窓から景色を見られている時など、可能な時は散歩に行かれるか意識確認を行うようにしている	◎	◎	◎	玄関やユニット入り口に鍵を掛けていない。出入りするとチャイムや鈴が鳴るようになっている。3か月に1回行う身体拘束、虐待防止についての内部研修で鍵をかけることの弊害について理解を深めている。また、事業所で虐待のアンケートを実施して、個々に振り返るしくみをつくらせている。ひとりで出かけようとする利用者には、職員が付き添い支援している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施設を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	居室の内鍵は掛かるようになっているが、基本は掛けない様にしており何かあった時の為職員が定期的に開けさせて頂く事を伝えている。ユニットの入口には施錠出来ない事も状態によって再度家族様にも伝えるようにしている。				利用者が行方不明になった際、警察からは施錠を止める説明があったようだ。管理者は、職員に、施錠することは拘束になることや鍵をかけないケアの大切さを話した。
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントシートに既往歴を乗せており、薬の写真などで服用している薬も分かるようにして各々が確認するようにしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日常と違う言動や様子が現れた時やバイタルが普段の数値と異なる場合等FTEかに記録として残し申し送っている。また、バイタルは時間をおいて再測定し必要な方は介護計画にも盛り込んでいる				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医の清水医院は24時間体制で対応して下さい、何かあれば指示を頂く様にしている。病院は看取り取次行っており、重度化になると一時病院へ入院処置を行ったりとの方に合わせて対応して下さい。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族様を選択して頂くようにしており、往診対応の清水医院に変更される利用者様が殆どだが整形や皮膚科、専門機関など以前から使用されていた病院を継続的に家族様がお連れして使用されている方も居られる	○			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	契約時、往診対応の清水医院が家族様がお連れする形で他のかかりつけ病院にされるかを選んで頂いている。往診や薬に対して家族様が疑問を持たれた事や要望を医師にも伝え、薬変更などは職員からも家族様へ連絡を入れる様にしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	家族様より医療についての質問があった場合は施設でも答えられるようにして医師にも伝えるようにしている。薬の変更や、ワクチン接種などの場合はその都度家族様に連携して施設から連絡を行うようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時に必要な物品と共に関係している病院に入院をした事を伝え、主治医には情報提供をして頂いている。施設からも日常状態が分かるようにアセスメントシートや個別援助マニュアルを渡す様にしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	経過報告が分かるように入院時は可能な限り職員が面会に伺い、家族様と連絡を取り本人様やナースステーションの看護師に状態を伺うようにしている。また、主治医にも情報を伝えている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護職員が居る時は状態を伝達をして確認して頂いている。必要時は往診日以外に訪着で来て頂く点滴の対応等して頂く事もある。24時間対応で、一度看護職に情報を伝え主治医から指示を頂くようになっている。心療内科の看護師が訪問時は医師の診察前で出来るだけ詳しく伝えるようにしている。				
		b	看護職も訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	清水医院は24時間対応で、連絡をすると対応について指示や返答を頂けるようになっている。又、利用者様の異変時や看取りなど必要な場合は夜でも往診をして頂けるようになっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	入浴後は安静にして頂いたり、毎日朝バタイル測定をしている。排泄の量が少なかったり、何時も違う様子の時は申し送りを行い職員全員が周知して観察を行い必要時は病院に連絡を行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	病院から薬変更があった場合は全員が周知出来るように申し送りを行い、FTケアにも変更を記入している。薬の写真を見て薬の機能などを各自が確認しており家族様にも情報を伝えている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬のセットは薬局にして頂き、服薬時は声出しを行い他の職員と確認を行っている。下剤服用時は職員2名でセットも確認するようにしている。薬の変更時は必ず記録に残し、薬のBOXにも付箋を貼ったり、錠数を変更など飲み忘れが無いようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用（周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等）がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬が変更時は特にバイタルなどを注視するようにしており、精神薬の場合はなるべくつき等特に本人様の状態に気を付けている。薬によって状態の変化が見られる時は副作用を検査したり他の職員と話し合い医師に相談をするようにしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に説明を行っており、状態の変化が見られた時はその都度家族様と相談を行うようにしている。必要な場合は特等への申請や同系列の施設への移動もある。終末期は主治医とも話し合い家族様の意向も聞き痛みを伴わない看取りを実施している。				入居時に重度化や終末期の支援について説明を行い希望を聞いている。その後は、状態変化時に話し合い方針を共有して支援している。 この一年間は、4名の利用者の看取り支援した事例がある。 看取りの期間に入った利用者の希望を叶える取り組みとして、10月ではあったが、そうめん流しを行った。また、図書館や喫茶店に出掛けることを支援した。家族から「この事業所でよかった」との感想があったようだ。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	24時間の看護職滞滞ではない為、医療が伴わない看取りは行っており医療が必要な場合は病院での治療を行ってから看取りとなること等その都度どの様な支援を行うか話し合い情報を共有している。	○	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員に不安が無いようにやり取りなどを伝達し、その都度不安を聞き看取りと向き合うようにしている。利用者様本人に負担が掛からないように職員2名で対応を行ったり、医療と状態を常に連絡を取り合ったりと記録を細かく残している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時にも家族様には病院系列のグループホームではない為、医療を伴わない場合の看取りのみ可能な事を伝え、終末期が近くなるとその都度医師も同席し説明を行うようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	看取りに合わせてケアプランを変更するようにしている。家族様が寝泊まりしたり一緒に過ごせるように居室にソファを設置出来るようにしている。お風呂もリフト浴を行えるように改修を行った。看取りについては毎年定期的に学習するようにしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	終末期が近くなると家族様と連絡を行い、状態を伝えるようにしている。終末期は小まめに状態を確認し、家族様の心情に寄り添い話を伺ったり本人様の良い事も伝え居室と一緒に過ごせる時間を作るようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	コロナ禍になり、常に感染症に対して手洗いうがいや消毒を行うようにしている。各感染症に対してもラーニングでも学習するようにしており対策マニュアルも作られている。定期的にBCP訓練も実施している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	各感染症についてマニュアルが作成されており、予防と発生した時の取り決めがそれぞれ明記されている。又、年に何度かは訓練も実施して嘔吐物の処理の方法等改めて勉強資料を確認するようにしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	流行への注意など施設への回覧や施設長や管理者からの申し送り、個人で情報を確認する等状態に合わせて情報を確認するようにしている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員だけでなく、施設に訪客の場合は手の消毒と検温を行ってから入って頂く様にしている。現在は利用者様以外の職員を含む外部の方にもマスクを着用して頂いている。利用者様は日2回、うがいをしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	施設行事の案内を行い、家族様にも一緒に参加を促しているようにしており協力して行っている。又、介護計画にも外出支援や物品の購入などお願いをしている。面会時には日頃からの様子など職員も伝えたりと会話をするようにしている。				毎月送付する手紙や面会時、SNSで行事を案内している。 11月には、事業所開設20周年記念のイベントとして、ペランダでのBBQを行った。法人代表者からは、黒毛和牛の差し入れがあり、利用者、家族、職員合わせて30人程度で楽しんだ。家族は7～8組程度の参加があった。 看取りを支援した利用者の家族から「楽しいことに使ってほしい」と心付けがあり、家族も誘いカフェに出かけた。参加した人からは、「利用者と一緒にゆくりと過ごせたり、他の家族とも交流できてよかった。」「またこんな機会があるといい」と感想があったようだ。 5月の総合公園でのピクニックの折にも案内をした。毎月、料理教室かイベントを行っており、家族の参加がある。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流）	◎	毎月行事案内を送らせて頂き、参加の有無をLINEで確認するようにしている。家族様との関わりを介護計画にも盛り込み、自宅に帰宅や外出なども取り入れている。カフェに四ツ葉開催で行き、多数の家族様にも参加して頂いた。	◎		◎	毎月、担当職員が手紙を書いて本人の状況を報告している。面会に来る家族には、口頭でも伝えている。家族とSNSでつながり、写真や動画でリアルタイムな情報を送っている。
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	面会時には帰れる際に必ず職員から本人様の様子なども伝え、気になる事がないかを伺うようにしている。又、1ヶ月に1度は担当職員から行事や日常の様子を含む施設での写真をLINEで文章と共に送るようになっている。定期往診以外での医療の事や転倒などの事も随時伝えるようにしている。	◎		◎	毎月送付する書類に管理者からの手紙を同封して事業所の運営に関する情報（設備改修や職員の異動）を知らせている。 4ヶ月に1回、写真入りの便りに、行事や日頃の利用者の様子、職員紹介、理念を載せて送付している。行事は、運営推進会議でも伝えている。運営推進会議の報告書を全家族に送付している。
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	入居前の関係も本人様からだけでなく家族様からも伺うようにしている。認知症について、症状などが出たときは戸惑いが無い様にその都度話し合える機会を作り、日常の生活の様子や状態なども伝えるようにしている。				担当職員が家族との窓口になっている。面会時、SNS、電話でのやり取りの際に、利用者の状態や様子を報告して、家族の意見や要望を聞くようにしている。
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	月々の請求書と一緒に設備などを変更した場合など、伝えるようにしている。運営推進会議の内容と一緒に送付するようにしており、人事の変更担当の変更等も記載したり、面会時にも伝えるようにしている。	◎		◎	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	転倒などのリスクが見られる時は事前に家族様に伝え、センサーを設置させて頂いたり、本人様がベッドから降りようとする意志が強く見られる場合は床に転倒防止マットを設置など話し合いで決めている。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居宅への宿泊のしやすさ等）	○	日頃から担当職員を基本として家族様とLINEでの連絡のやりとりを行っている。事前に気になる事を伝えて頂いたり、自宅への帰宅について家族様だけでは難しい場合職員の支援で可能な話合いやアプランに盛り込むようにしている。居室で話す際、人数分のバリエーションを用意して家族様と利用者様だけで話せるようになっている。利用者様と一緒に玄関まで見送りを行っている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。（食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	○	事前にパンフレットの費用についてお渡ししている。初期費用も含め、契約書を社長や管理者と他職員1名と家族様と一緒に読み込みを行っている。その時で質問がある場合は受け答えするようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	已む得ず退居となる場合も次の転居先が決まってから移って頂くようにしており、家族様ともトラブルに発展しないようにやり取りを行っている。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設当初から地主の方とは話し合いを行い、何度か施設のイベントも参加して頂いた。地方祭には毎年近所の神輿入れを行っている。近所の店舗などにも有る際に協力をお願いし、日頃から店舗の活用をさせて頂いている。		◎		町内会に加入している。 地域の役員の方が地域行事の案内を持って来てくれる。 秋祭りには、子供と大人の神輿の訪問があり、利用者と職員で見物した。 散歩の際には近所の方と挨拶したり会話をしたりしている。おやつを買いに行く等、周辺のスーパーやコンビニを利用している。 季節に応じた事業所の周りを鯉のぼりやイルミネーションで装飾しており、見学に来る人がある。 事業所前の道路が大雨で冠水した時は、近所の人達と一緒に掃除等を行い、感謝の言葉をもらったようだ。 春には、公園で花見ができるよう、町内会長に車の乗り入れ許可をもらいに行った。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	散歩の際には近所の方と会話をしたりしている。畑などをしていると声をかけて下さる方も居られ、施設で出来たひまわりの種を配布した。地域への行事参加などは少ないが、神輿の受け入れをしったり鯉のぼりの撮影場所として開放している。職員や家族様に同じ町内の方が居られ情報を頂く事もある。		◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	散歩をしていると飼い犬に利用者様が可愛いと言うと立ち止まって下さったり、声をかけて下さる方も居る。利用者様が施設の通、通報をして下さる方も居た。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄りた遊びに来たりしている。	○	日頃から施設に立ち寄られる方は居られないが、鯉のぼりやイルミネーションなどのイベント時は駐車場内で撮影可能として親子で楽しんでいた方も居る。フリスビーが、施設で取れたヒマワリの種を配布して自由に持って帰って頂いた。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらうなど、定期的なおつきあいをしている。	○	散歩の際や畑仕事をして居る時に話をしたり、掃除の際に挨拶を交わす等している。門扉近くで会話をすることはある。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	三津浜中学校の生徒が体験学習で利用者様と一緒に体験をし、外出と一緒にしてくれた。地域のチアリーダーが日頃の成果を施設に来て披露してくれた。歌のボランティアも来て下さり、次回もお願いしている。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店、スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	近所のダイレックスやスーパーなど、利用者様が本人様持ちのおやつを購入する時に使用させて頂いている。髪も福祉系の出張美容師にお願いして着て頂いている。すみれの公園に事前にお願いし、車の乗り入れが出来るようにして花見を行った。				
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	包括支援センターや市の方が毎回交代に来て下さり、事前にlineや面会時に伝え家族様にも参加をして頂いている。利用者様にも参加して頂き、日頃からの写真など活動報告を見て頂いている。	◎		○	会議には、毎回ではないが利用者、家族、市職員、地域包括支援センター、民生委員の参加がある。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	外部評価について配布し、施設で立てた目標について報告をしている。又、1年間を通してどのように実施出来ているか途中経過を報告している。会議内で出た案で、取り組めることは実施できるように申し送り次回会議までに改善出来る様に取り組んでいる。		◎	○	行事報告、行事予定、入居状況や活動について報告を行っている。事故報告は、対応策等についても説明している。 外部評価実施後は、評価結果を抜粋した資料をつくり、目標達成計画とともに報告した。 家族から、名前が出るかと参加しにいいという声があり、市の担当者の意見を受け、家族の名前はイニシャル表記で報告書を作成することにした。
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	家族様が毎週月曜日に面会に来られるのに合わせて曜日を変更し、時間帯も変更をした。会議の日程が決まると事前に伝える事で参加は以前よりも増えている。職員も固定ではなく、会議日に合わせている。		◎		

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	4つの柱を元に理念カードを保持して業務に取り組むようにしている。ミーティング時などに職員全員で読み上げるようにしている。日常での職員の理念に対する意識は少ない				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ユニットの入口に四ツ葉の理念を額に入れて置いているが、理念を意識して下さっているかは分からない。家族様参加の行事等の時に説明をする機会も作りたいと考えている	○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修の案内を職員が分かる所に置いており、職員に自主性をもって参加できるようになっている。施設内でも各自がeラーニングで学べるようにしており、毎月テーマを決めて学ぶようにしている				代表者はよく、事業所を訪れ、職員の話を知っている。 「休もつか宣言」のポスターを掲示して、有給休暇を取りやすくしている。 また、就業終了時間15分前から業務が終わっていたら帰ることをすすめている。勤続年数毎に連休がプラスされる。誕生日休暇がある。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	定期的に訓練やeラーニング学習などを取り入れて職員にとって学ぶように取り組みをしている。技能実習生には別枠で練習する機会も作っている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	各職員に担当利用者様や係を振り替ったりして、出来る事が増えるように取り組みを行っている。職員が得意な事を利用者様のケアに繋げられるようにしている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	外部研修などを通して同業者の方と交流をする事があるが、なかなか個々でやりとりをする機会はない。同じグループ内で勤続年数を合わせた研修を行い、他の施設とも研修を行う機会を作っている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	休み希望など、勤務を組む前に事前に各職員が出せるようにしたり旅行など前もって伝える事で取り易くして下さっている。職場内のトラブルについても職員だけでは解決が難しい時は介入して頂いている	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることがないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	eラーニングを通して学んだり、資料を配布する事で虐待について学ぶようにしている。日頃から利用者様の心身に傷等の外傷がないかを確認し、申し送りされい早期に気が付けるようにしている。定期的に意識の徹底の為アンケートを実施している。		○		eラーニングや3か月に1回行う身体拘束、虐待防止についての内部研修時に学んでいる。 年2回「身体拘束に関するチェック表」で職員個々に振り返っている。 不適切なケアを発見した場合は、職員が主任や管理者に報告することになっている。 この一年間では、虐待が疑われる事案が発生し、市に通報したようなことがあった。その後は、職員にアンケートを取り、委員会を開いて対策を検討した。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎年2回、職員全員にアンケートを取って虐待について自分自身で向き合うようにしている。又、アンケートの結果をまとめたものを全員が閲覧できるようにしている。ミーティング時に利用者様への接し方についても話し合いを行っている				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者は職員の状態を把握し、日頃から様子を確認して現場に影響が出ていないかを確認するようにしている。定期的に面談も行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束について一般的な拘束とされるものが何かを資料として配布し、危険がある等のやむを得ない状態が回避出来ないかの対策を講じる様にしており、あくまで一時的な本人様が危険な場合とも理解している				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	該当することが無いかを定期的に確認している。ベッドからの転倒が考えられる時、事前にとどのように行う事が良いかの検討案を出し合い決定している。今までの事例に合わせて本人様の状態に合わせた物を家族様にも相談して実施している				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族様から転倒や拘束についての要望があっても虐待にも繋がる行為で施設では行えない事をしっかりと伝え、センサーや転倒防止マットの使用など代替えと共にその都度連絡をして転倒のリスクについても説明をしている				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	権利擁護について職員は各自で学び、研修などにも参加しているが勉強不足と感じている職員も居る。家族様が必要と感じ時には資料を提供出来るようしている。パンフレットなどは常に設置は行っていない。成年後見制度を使用している方も今は居られない				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要な場合は提示出来る様に常に管理者は地域包括支援センターとの関係を密にして連携を取っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	各事故に対しての対応マニュアルを作成しており、夜間の急変時なども職員が少人数でも対応出来るように携帯を保持してすぐに別職員を呼べるようにしている。かかりつけ医も24時間体制になっている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	eラーニングを通して学習したり、マニュアルと共に定期的に人形を使った心臓蘇生などを実施して緊急時に対応出来るようしている。BCPLに対する取り組みを実施している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	日頃からヒヤリハットや事故に対して全員が周知出来るように申し送り、対策も現場職員が意見を出し合い対策を決めるようにしている。事故の場合は原因と対策を全員で考え検討した内容を行う様にしている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	今後、事故やヒヤリハットに繋がる危険性が事前に分かっている場合は申し送りをし現場職員で日頃からの様子をより観察して口頭でも話し合いを行うようにしている。ヒヤリハットをノートにして各自確認している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成しており、苦情があった場合は速やかに申し送り上司に報告を行ったりして対応するようにしている。申し送りノートもあり、その都度解決策を考えている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情が聞かれた場合、職員から上司や管理者に速やかに苦情内容を説明し対処が難しい場合は施設長に連絡を行い速やかに行動をするようにしている。結果がどうなったかも申し送るようになっている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過と結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情を受けた職員はそのままにはせず、分からない場合は速やかに上司に相談し早期に解決出来るよう取り組みを行い、事後も関係性が保てるようにコミュニケーションをとるようになっている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつづけている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	家族様や利用者様からは面会時も含めてその都度要望等がないかを伺うようにしている。運営推進会議などでも要望や不満など意見がないかを常に伺うようにしている。	○		○	利用者には、日々の中で聞くようにしているが、運営についての意見はほほえないようだ。運営推進会議に参加している家族は、運営に関する意見や要望を伝える機会がある。その他の家族については、面会時やSNSなどで聞いている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	意見箱を設置しているが実施して下さる事は無く、何かあった場合は直接職員に言っ下下さる事の方が多い。運営推進会議でも意見を求めるようにしている。苦情など、あった場合は速やかに申し送り対応をしている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場の職員に設備や困った事がないか等個人の意見も声掛けを行って下さり人員の相談や施設周囲の害虫駆除などもして下さっている。行事等、事前に分かっている時は顔出しをして下さる事もある。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	ミーティング以外でも半年に1度は直接面談を行うようにしており、勤務表を立てる前に個別的な外食や外出等の支援や行事に時間を使えるように提案書を提出する流れを取り組んでいる			◎	管理者は、職員と一緒にケアに取り組みながら意見や提案を聞いている。また、ミーティング時や年2回の面談時に聞いている。職員からは、利用者を楽しませるための提案やアイデアが活発に出ているようだ。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価について1年を通して再確認を職員全員で行い、1年に1度自己評価を行い提出する事で新たな課題を確認するようにしている。				
		b	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	外部評価を実施後、目標を立てて計画を作成運営推進会議でも取り組みについて話し合いを実施し職員全員で課題について取り組みを実施した内容についても報告するようにしている				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族様に外部評価について運営推進会議で発信を行い、取り組みについて目標や経過を発表し意見を頂くようにしている。	○	○	○	外部評価実施後の運営推進会議時に、評価結果を抜粋した資料をつくり、目標達成計画とともに報告している。また、全家族に送付している。また、年間を通して、家族アンケート結果を数項目づつ提示して取り組みを検討している。目標達成計画は、現状報告を行っている。
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	自己評価までに目標が達成出来ているかの評価を行い、振り返りを実施するようにしている。家族様との行事参加、フリーメニューの実施など前向きに取り組み実施出来ている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	各マニュアルを作成し、職員は誰でも閲覧出来る場所に設置して何時でも見えるようにしている。災害の対応として、新たに設備が加わった場合は使用できるように申し送りも実施している。				
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	消防訓練は年に2回行い、想定を別で設定している。利用者様も一緒に参加して頂くようにしている。消防署にも年に1度は参加して頂き、実施状況を確認してアドバイスを頂くようにしている。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	倉庫に備蓄品を用意しており、備蓄品については賞味が切れる前に新しく入れ替える様にしている。経路や設備の点検も定期的に実施している。水害に備え門扉の部分にバネルも購入している。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年に1回は消防署と一緒に夜間想定火災訓練を実施しており、実際に煙を使用した事もある。近所のスーパーにも協力をして頂くように事前にお願している。合同訓練は行っていないが、同グループ内でいざという時使えるように物資を分配している	△	回答なし	△	年2回避難訓練を行っており、内、1回（令和6年11月）は、消防署の立会いのもとで行っている。地域との合同訓練や話し合う機会等は持っていない。近所のスーパー（コブ三津店）には、いざという時に協力してもらえようをお願いしている。さらに、いざという時に備え、地域と協力し合えるような体制づくりを具体的にすすめてほしい。
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	防災について取り組みを市の方が確認に来られた事があり、マニュアルも見直しを実施した。ハザードマップを置いており、消防署やアルソックと連携して取り組みを行っている。共同訓練は同列施設とのみ実施した事がある				また、家族アンケート結果をもとにして取り組みを工夫してほしい。
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	介護教室などは実施していないが、浜SUN市に施設長が外国からの研修生が参加して施設を知って頂く等している。同グループの施設を使用して研修会などを開催している				
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	施設内の見学やグループホームについて尋ねられた時に説明を行っている。施設が満床の場合も話を伺い、別施設など困っている時に次に繋げられる取り組みを行っている。		回答なし	×	地域の方の見学希望には随時応じているが、今後はさらに、地域のケア拠点として、相談支援を行うような取り組みもすすめてほしい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	鯉のぼりなど、施設の駐車場を撮影スポットとして提供をしたり花壇を整備して地域の方の憩いの場としている。施設で採れたひまわりの種を無料配布したり、家族様参加型のイベントも実施しており、今後地域の方にも広げられたらと考えている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地域の中学生職場体験を利用者様と関わりを持てるように受け入れを行った。緑小学校よりチャリディングが来て下さったり実習生の職場研修やアドリティなど、申し入れに对应するようにしている。				地域包括支援センターが取り組むアルツハイマーデーの活動に参加、協力をした。
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域の児童が行っているチャリディングを施設で実施したり、中学生が職場体験として認知症の高齢者と触れ合う機会を作っている。運営推進会議に参加して下さると共に情報や研修などでも関わりを持てている			○	地区の事業所連絡会が今年から再開され、管理者が参加している。地域の中学校の職場体験を受け入れている。